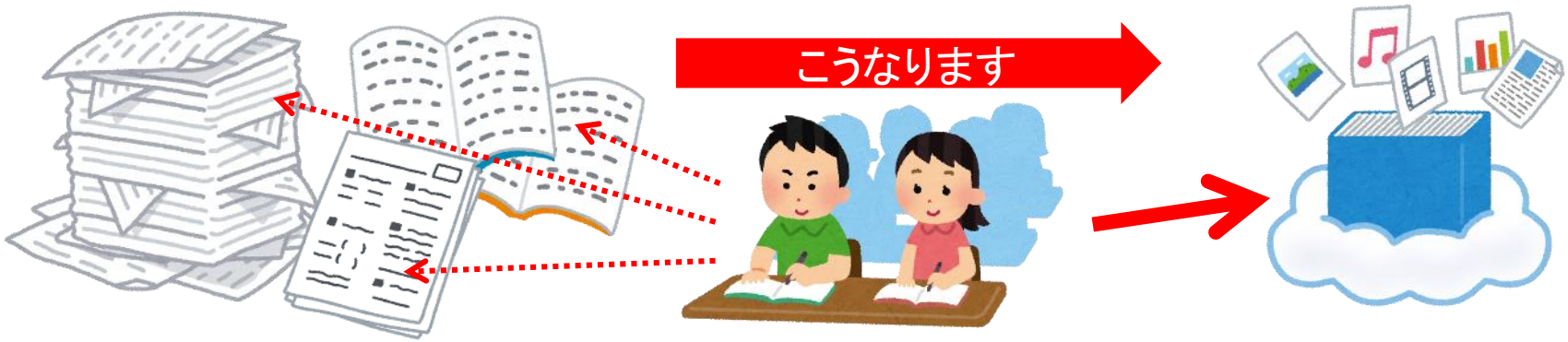
クラウドバイディフォルトとは

GIGAスクール構想による
「１人１台端末」「各校への高速通信回線の整備」により
学習に使うデータの保存を、基本的にインターネット上の領域に行うことです



このための環境整備の実現、及び、児童生徒・教員全員へのアカウントの配付により、主に次のことが実現できます。

- 学びのためのデータが変わる（文字、紙→画像や動画、デジタル）
- 授業が個別最適化される（画一的→個々の認知に応じた授業展開）
- 家庭の学習が変わる（学校と生活のシームレスな接続）

クラウドバイディフォルトで学びのデータが変わる

こうなります

クラウドバイディフォルトで授業が変わる

従来の
学習環境だと

こうなります

これからの
学習環境では

主体的・対話的で深い学びの単元(題材)構成

従来の学習環境だと		これからの学習環境では	
写真を探したけど、みんなに見せるためにどう印刷しよう、カラー印刷はできないし	①単元の導入では、学習の対象に関心を持たせよう。学校にはないものの写真とかを用意しようかな	いい写真があったぞ、クラウドで共有して授業で使おう	
小テストの作成、配布、丸付けが大変。一人1分で丸付けと記録をしても40分！？ドリルのお金もかかるなあ	②基礎的・基本的な知識を習得させよう。小テストをこまめに行ったり、ドリル的な要素を入れるといいかな？	AIドリルを毎回行おう。自動採点してくれるので、ここの見取りや傾向の分析に時間が取れるぞ	別紙①
ワークシートの印刷、配布、回収した内容の確認、資料の準備、やることが多い	③習得した知識を活用して思考を働かせる課題に取り組ませよう。ワークシートや、様々な資料を準備しなきゃ	ワークシート、資料を準備したぞ、クラウドで共有して授業で使おう	別紙②
ノートやワークシートをなくしている子がいるぞ。まいったなあ	④単元を振り返らせよう。全ての授業で内容を確認するために、ノートを見返させたり、回収したワークシートを返さなきゃ	クラウドに自動保存されているデータを確認させよう	

とてもやりきれない…やっぱり、
従来の教え込み→習得→単元末
テストの授業に戻そう

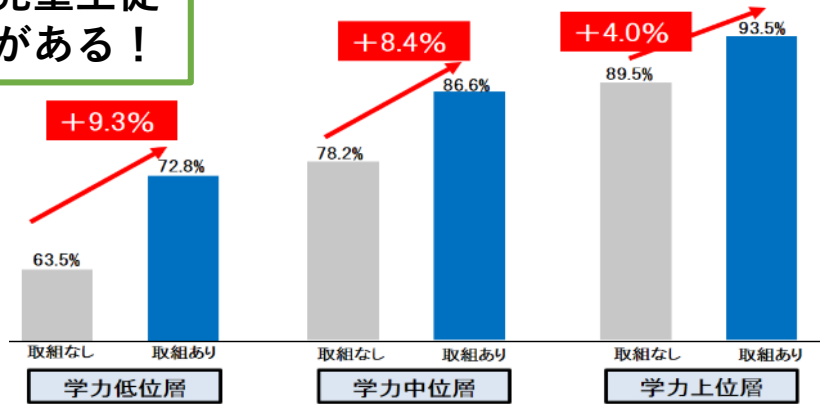
今までにない授業ができたぞ！児童生徒の力もついたぞ！仕事にもゆとりができたぞ！もっとやるぞ！

クラウドバイディフォルトで授業が変わる（別紙①）

個別最適化された授業の実現

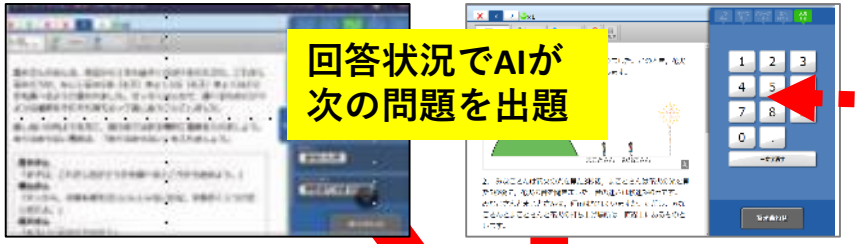
全ての児童生徒に成果がある！

デジタルドリルの取り組みと学力差



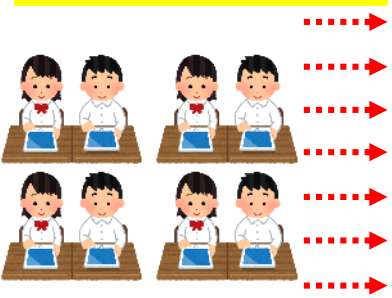
出典　株式会社ベネッセコーポレーション調査

基礎学力だけでなく、全ての児童生徒の学力を保障



回答状況でAIが次の問題を出題

全員の回答結果や傾向を蓄積



採点時間を削減、全体や個々の学習状況把握・分析に

学習状況の把握

個々の結果に基づき顔の見える個別支援

習得した知識を活用した考える授業の展開

学習状況を瞬時に可視化。質の高い授業計画と実施

クラウドバイディフォルトで授業が変わる（別紙②）

主体的・対話的で深い学び

はじめ

今後の社会では
どのような自動車をつくって
いったらいいか考えてみよう

デジタルワーク
シートの配付

展開

一部の児童生徒で進んでいた
授業に全員が参加を保証

意見を同時に書き込み・閲覧

全ての意見が
リアルタイムで表示

頻出キーワードや意見の傾向を
AIが教員に提示

思考の様子を可視化

ガソリンにみんな注目しているみたいだ

みんな、環境負荷に注目して自動車の機能を考えているね。でも、それだけでいいのかな？

グループで相談
ある生徒は教科書を示し、ある生徒はノートで振り返り、ある生徒はネットで情報を調べる

情報を共有し、整理、概念化など、情報活用能力の育成

多面的な考え方ができるようになったね

意見を共有
大型テレビや各個人の端末でそれぞれの意見を一斉表示

提出物管理が簡略化、学習成果の利活用

まとめ

振り返り（まとめ）
手元のワークシートを写真で写し、クリックアンドドラッグで先生に提出

教師からの一歩通行ではない、双方向性の授業の展開

クラウドバイディフォルトで家庭の学習が変わる

学校と生活のシームレスな接続により、授業の質の向上や準備の時間短縮とともに、全ての児童生徒の家庭の学習を保障にも貢献

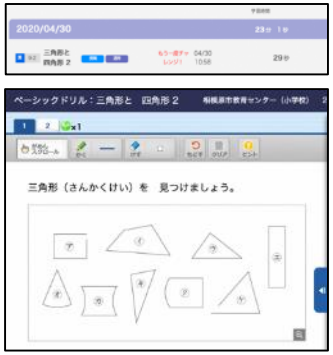
①質の高い授業の実現

→現状
家庭での学習状況を把握することが難しい。
学校の学びを家庭につなげることが難しい。
→今後
児童生徒の学習状況をより正確に把握した授業の実現。
学校の学びと実生活、社会の接続。

②全ての児童生徒の学力保障の実現

→現状
経済的余裕のある家庭でしか、塾等を利用した家庭学習の充実を行うことができない。
→今後
全ての家庭で、児童の学習状況に応じた家庭学習の実現が可能。

（例）小学2年生　算数 「かたちづくり」



授業の最後に行った確認テストではみんな三角形がよくわかっていないみたい。宿題に、みなおしドリルと、家の中で三角形をみつけさせましょう。

Aさん

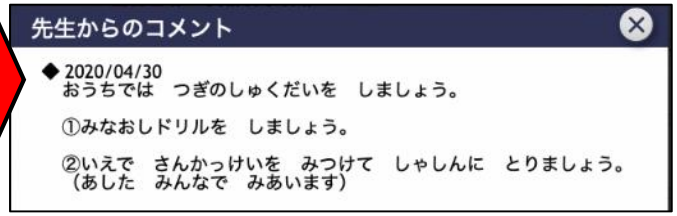
Bさん

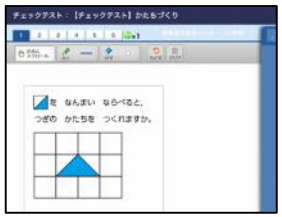
Cさん

Dさん

おや、みんな色々見つけているみたい。明日はAさんの写真を授業の導入に使いましょう。

相模原市の活用するオンラインサービス



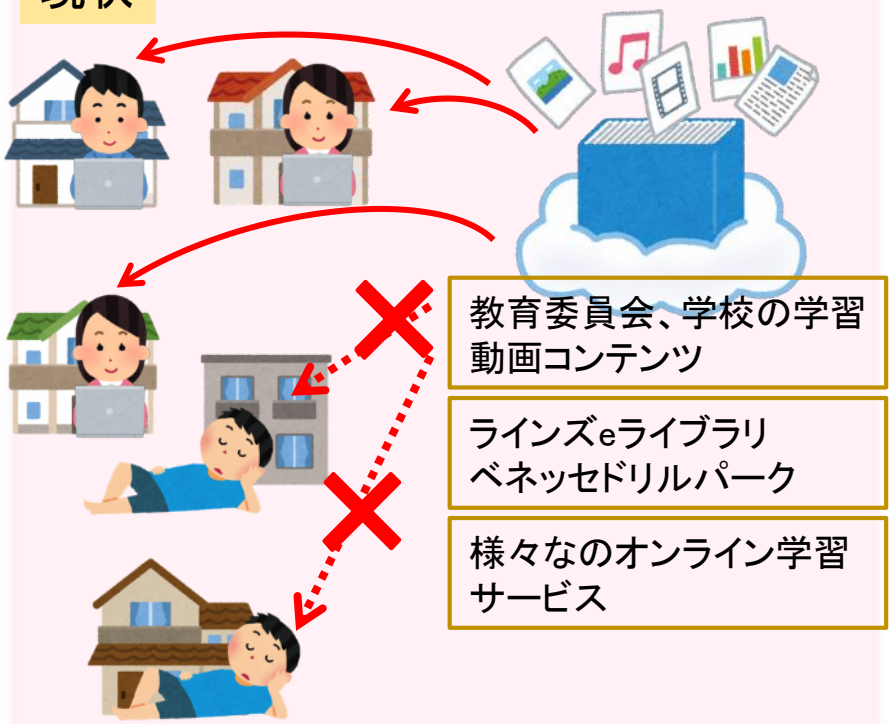


先生からコメントが届いているぞ。
よし、ドリルに取り組み、写真を取ろう。
こんなところにも三角形があるんだ。みんなと明日見せ合うのが楽しみだな。

（その他）今後の臨時休校時の学びが保障できる

コロナウィルスの集団感染第2波が来た際の学びの保障も実現

現状



教育委員会、学校の学習動画コンテンツ

ラインズeライブラリ
ベネッセドリルパーク

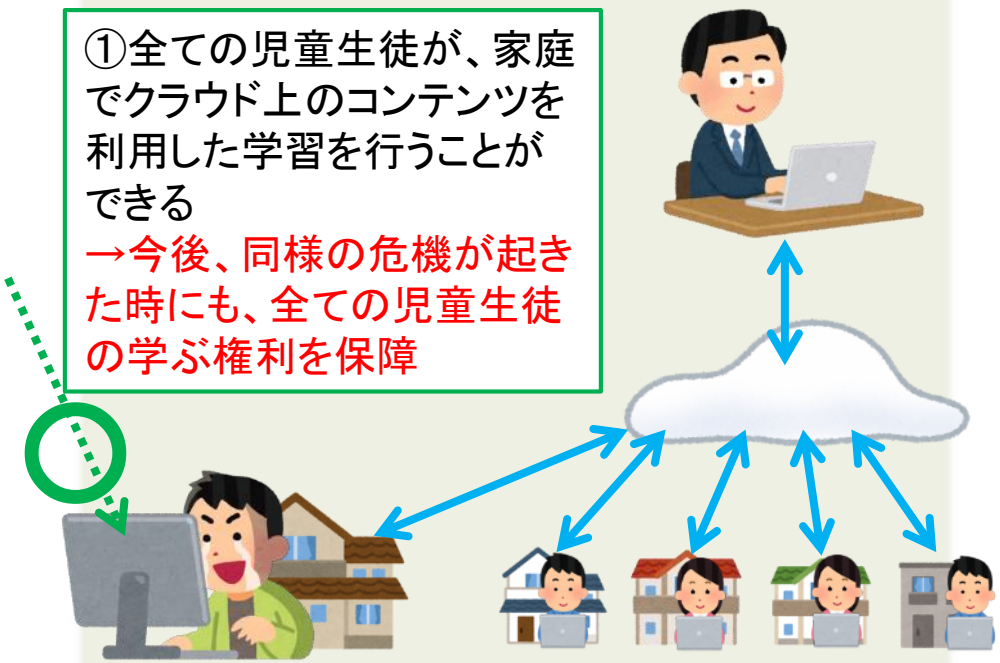
様々なのオンライン学習サービス

平成30年時点で神奈川は約40%の家庭にコンピュータもしくはタブレットPC等がない
→相模原市の場合、約20,000人の児童生徒がWEBを活用した学習を満足にできない状況

学力格差の増大

タブレットPCの導入と持ち帰りによって目指すこと

①全ての児童生徒が、家庭でクラウド上のコンテンツを利用した学習を行うことができる
→今後、同様の危機が起きた時にも、全ての児童生徒の学ぶ権利を保障

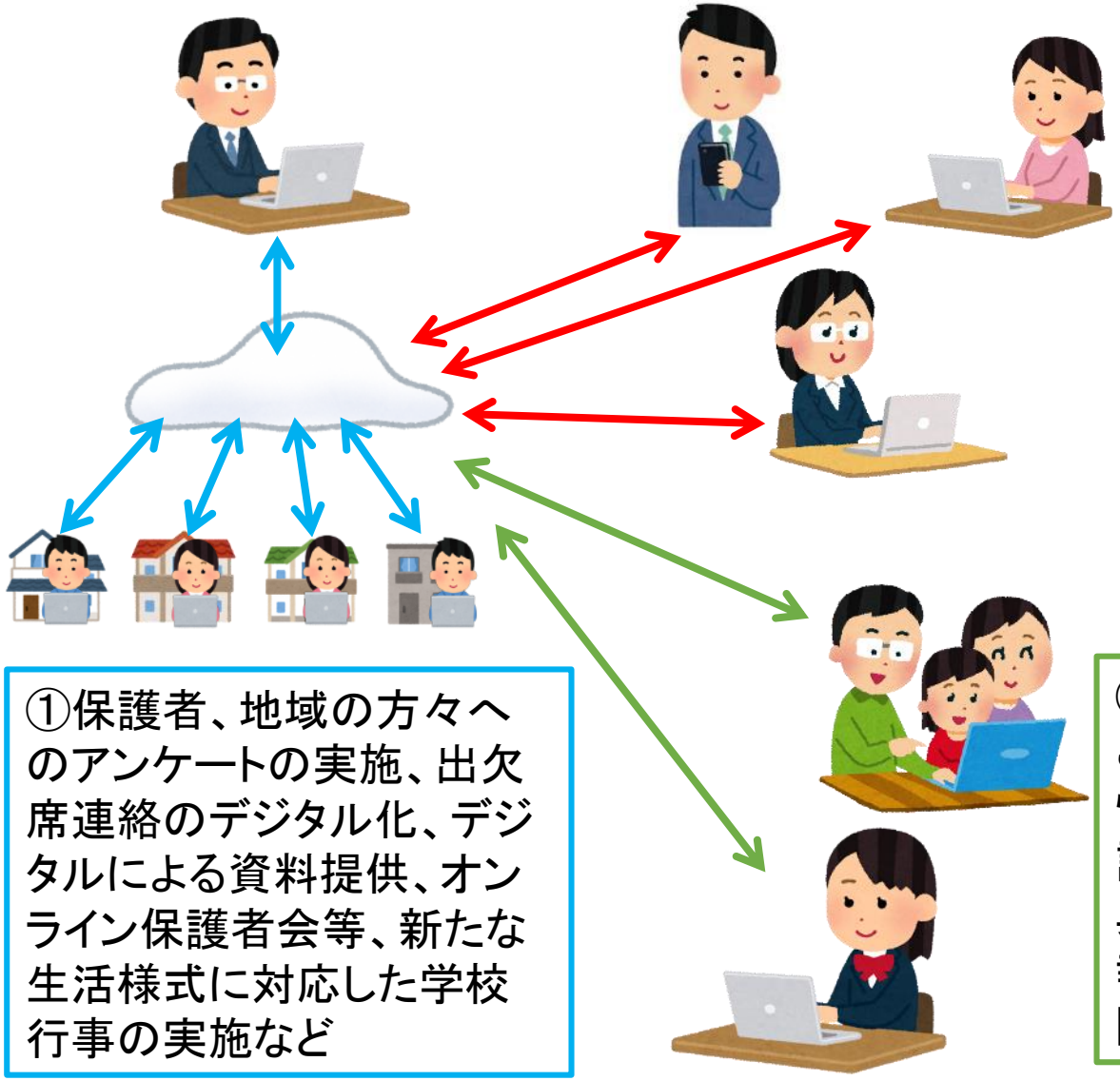


②全ての家庭に環境整備がされることでリアルタイムでの、オンライン授業が実現可能
→質の高い学習の保障、児童生徒の心のケア、保護者の負担軽減などが推進

問題の解決

（その他）様々な学校の活動が効率化できる

学校を中心とした様々な活動が効率化、さらに推進されるようになります



②教職員間による情報共有（朝の打ち合わせなどの簡略化）、在宅勤務時のファイル共有による校務の実施、校務分掌や相小中研、各部活動専門部ごとのclassroom運用による仕事の効率化など

①保護者、地域の方々へのアンケートの実施、出欠席連絡のデジタル化、デジタルによる資料提供、オンライン保護者会等、新たな生活様式に対応した学校行事の実施など

③委員会活動や、部活動ごとのclassroom運用による、情報共有、休日の出欠確認、学校の学習の様子や異学年間、異学校間の情報の共有や学びの共有（遠隔授業等）

この他、教育委員会との連携で研修等の情報共有も効率化します